

秋山隆志郎（東京情報大学・教授）

1990年11月1日

先日は「番組分析と視聴学習行動の研究」を、お送りくださり、ありがとうございました。私は、放送教育の効果のことをいろいろ考えてきましたが、この様なご研究を読み、たいへん触発されました。

赤堀侃司（東京工業大学・教授）

1990年11月14日

本日は、貴センターの研究報告書および貴兄の論文および別刷をお贈り下さり、誠にありがとうございました。

厚く御礼申し上げます。番組分析の方は、私もこれからやろうとしており、（主に生体情報の点から）貴重な文献になります。宜しく御指導下さい。

赤堀正宜（国際武道大学・教授）

1990年11月14日

このたび研究報告18号「番組分析と視聴行動の研究」をお送り下さいましてありがとうございました。永年の研究の成果が見事に結実されていて、とても参考になります。特に、第2章視聴テストによる視聴学習分析、第7章テレビ番組による視聴能力の調査、は興味深く読ませて頂きました。学生の視聴後の番組内容の再生テストの結果をみますと、映像、音声、講師の解説によるカテゴリーが他のカテゴリーより再生率が高いことから、映像教材の教育効果とその使い方が方向づけられたのではないのでしょうか。

実は、私は大学で教育原理を担当してしまして、教職経験のない学生にどうして教育の実態を知ってもらおうか苦勞をしているところです。講義には、放送大学授業番組の「学校教育」「教育方法」や開発センター制作の「教師教育教材」さらにNHK制作の教育社会番組を使用しています。大学の講義で使用する場合は、教室教師が教育目的に沿って視聴させるわけですので、教師による視聴前の説明があります。したがって、藤田・伊藤先生の実験方法とは少し違うかも知れませんが、利用方法の改善を目的として、視聴実験をするつもりでいます。教室教師の解説がある場合と、単にビデオを見せた場合に結果は、違って来ると予想されます。教師教育における教授方略を明らかにしたいと思っています。結果を来年の日本教育工学会で発表するつもりです。こうした私の研究に、先生のやられた研究がたいへん役に立つことは言うまでもありません。ぜひ今後も情報をお送り下さり、お教えいただければ幸いです。

近藤 勲（岡山大学教育学部・助教授）

1991年2月7日

本日は、貴放送教育開発センターのプロジェクトの研究成果「番組分析と視聴学習行動の研究—放送教育番組のタクソノミーの開発を目指して—」をご恵贈下さり、誠にありがとうございました。

視聴覚教材の効用については、数多くの議論と知見が紹介されていますが、新しいメディアについては、未知の部分が多く、未開拓の研究領域ではないのでしょうか。

貴研究の契機であり、要点である“情報の送り手と受け手のマッチング”とは、どうかすれば一見華やかな応用研究にうもれて目立たないため、見過ごされる問題のように思います。この点、先ず、敬服致しました。

過日、貴センターで開催された教育工学会の研究会では、このような膨大な研究成果の氷山の僅かな一角が紹介されていたとは、つゆ知らず、生半可なお尋ねをして、誠に失礼致しました。貴報告の第2章を拝見して、従来の評価法の欠点、短所を無くすべく新たな視点から、視聴評価を測定されていることが、よく分かりました。

視聴にあたって、興味・関心のみならず仲間意識ということすら、視聴効果に寄与している由、今後の視聴覚教材の制作に重要な手がかりを与えてくれました。

久来 稔（早稲田大学・教授） 1990年11月9日

先日は貴重な資料を早速お送り頂きましてありがとうございました。テレビ・メディアと学習といった問題は新しい課題を数多くはらんでいる非常に面白い領域ではないでしょうか。映像思考型といったタイプの出現など、かつては考えられなかったものだと思います。頑張ってください。期待しています。

石黒 二（愛知学院大学・教授） 1990年11月16日

放送教育開発センター「研究報告」並びに「研究紀要」ご惠贈くださいましてありがとうございました。「テレビ学習における眼球運動と視聴覚情報処理」の論文興味深く拝見いたしました。これが教材提示方法の研究に発展して行けばより稔りよいものとなるように思います。

井上雅勝（大阪大学人間科学部・大学院生） 1990年11月19日

この度私のようなものに研究報告をお送り頂き、大変恐縮いたしております。厚く御礼申し上げます。拝見させて頂きました中で、「カメラの目に人間の目が対応する」という御考えが特に印象深く、今後の刺激画像作りや実験の計画に参考にさせて頂きたく存じます。